

最新の低侵襲手術支援ロボット da Vinci Xi を導入

da Vinci Surgery

低侵襲手術支援ロボット

従来の腹腔鏡手術と同じようにいくつかの小さな切開部を作り、外科医の操作に従って内視鏡・メス・鉗子を動かして手術を行う内視鏡手術支援ロボットのことです。



特徴

デュアルコンソール機能

1人でしか行えなかった手術が、2人の術者が同時に実施することが可能です。これにより専門分野が異なる術者が協力しながら手術を行うことができます。

体への負担が少ない

数カ所の小さな切開部から手術を行うため、**傷が小さく**、出血も抑えられ、**手術後の回復**が早く、患者さんの負担が軽減されます。

鮮明な3D(3次元)画像

コンソールモニターには**高画質**で**立体的な3D**ハイビジョンシステムの手術画像が映し出されます。

精密な動きを再現

医師がロボットアームに装着されている鉗子やメスを操作します。ダビンチの鉗子はリスト構造を持ち、人間の手より**大きな可動域**と**手ぶれ補正**機能を備えています。

低侵襲ロボット支援手術の実績

ダビンチは今日までに世界中で約250万件(2015年現在)のさまざまな外科手術で使用されてきました。

当院での主な適応手術

前立腺がん、腎臓がん、胃がん、大腸がん、食道がん、子宮がん など